

< B 鑑賞 >

(1) 鑑賞の活動を通して

* 中学校学習指導要領「第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 2 内容の取扱いと指導上の配慮事項」より

(7) 各学年の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、次のとおり取り扱うこと。

ア 生徒が自己のイメージや思いを伝え合ったり、他者の意図に共感したりできるようにするなどコミュニケーションを図る指導を工夫すること。

第1学年 B 鑑賞

題材名「日本の楽器の響き」 教材名「そうかくれいぼ巢鶴鈴慕」

【第1学年の目標】

- (1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。
- (2) 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身に付け、創意工夫して表現する能力を育てる。
- (3) 多様な音楽のよさや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。

【第1学年の〈鑑賞〉指導事項】

- ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って聴き、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。
- イ 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて、鑑賞すること。
- ウ 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴から音楽の多様性を感じ取り、鑑賞すること。

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項 → ア

- ・我が国の伝統音楽におけるリズムや速度に関する特徴的なものの一つである「間」によって醸し出される雰囲気や味わいなどを感じ取る。
- ・緩急の変化が生み出す音楽の表情などを感じ取る。
- ・尺八の様々な音色やその変化、奥深い豊かな表現を味わう。

【学習活動例】

学 習 活 動 例	〔共通事項〕との関連
○「巢鶴鈴慕」について確認（説明）する。 ・楽曲の背景について分かったことをワークシートにまとめる。 ○「巢鶴鈴慕」の初段を聴く。 ・音の特徴について気付いたことを話し合う。 ○「巢鶴鈴慕」の初段で用いられる奏法（スリ上げ、コロコロ、タマネ）について説明した動画を視聴する。 ・初段で用いられる奏法について、ワークシートにまとめる。 ○音の動きに着目して、再度、「巢鶴鈴慕」の初段を聴く。 ・スリ上げ、コロコロ、タマネのそれぞれについて、緩急の変化が生み出す音楽の表情（音の高さ、音の動き、音色の感じはどうだったか）と関連付けてワークシートにまとめる。	速度 音色

・「間」によって醸し出される雰囲気や味わいなどについてワークシートにまとめる。 ・少人数グループで各人が発表し、感じ方の多様性について理解を深める。 ・再度、各人でワークシートにまとめる。 ・巢鶴鈴慕の初段を繰り返し聴く。 ・各人で、「『間』によって醸し出される雰囲気や味わい」と、「緩急の変化が生み出す音楽の表情」についてワークシートにまとめる。	構成形式
--	------

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
・音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを感じ取りながら、尺八特有の音色や奏法に関心を持ち、それらの表現効果について鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	・音楽を形づくっている「間」の要素を知覚し、それらの働きが醸し出す特質や雰囲気を感じ取りながら、解釈したり価値を考えたりし、言葉で説明するなどして、「巢鶴鈴慕」の初段のよさや美しさを味わって聴いている。

「間」について

「間」は、我が国の伝統音楽におけるリズムや速度に関する特徴的なものの一つである。例えば、間によって醸し出される雰囲気や味わいなどを表現や鑑賞の活動を通して感じ取ることなどが考えられる。

中学校学習指導要領解説 音楽編p. 68

「音楽のよさや美しさを味わう」とは

「音楽のよさや美しさを味わう」とは、例えば、表層的に快い、きれいだといったことにとどまることなく、その音楽の内容を価値あるものとして自らの感性によって確認する主体的な行為のことである。

さらに、自ら感じたことや自分なりに解釈したことを基に話し合う場面を設けることによって、他者の感じ方や解釈も参考にして、より深く音楽を鑑賞することが考えられる。

中学校学習指導要領解説 音楽編p. 36

題材名「曲の仕組みに注目して聴こう」 教材名「ボレロ」

- (1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。
- (2) 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。
- (3) 多様な音楽に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。

学 習 活 動 例		〔共通事項〕との関連
○ 「ボレロ」について興味・関心を持つ。 ・冒頭の部分を聴かせて、聴き覚えの有無を尋ねたり，CM等で使われていることを話題にしたりする。 ・バレエ音楽としてラヴェルが作曲したこと，ボレロとはスペイン発祥の歌曲・舞曲であることなどを知る。		
○ 「ボレロ」のリズムや主題を覚え親しむ。 ・初めの部分を聴きながら，リズムに合わせて手を打ったり，指で机をたたいたりして，特徴的なリズムを感じる。 ・二つの主題を聴かせ，「La La La～」などで口ずさむことで旋律を感じる。	旋 律	
○ 曲の仕組みに注目して聴く。 ＜旋律に着目する＞ ・主な二つの旋律を聴き分けながら，全体を通して聴く。 例１）主題Ａと主題Ｂを示し，Ａが聞こえたら，ワークシートに赤で印を付け，Ｂが聞こえたら青で印を付ける。 例２）主題Ａが聞こえたら右手を挙げ，主題Ｂが聞こえたら左手を挙げる。 ・楽器の種類と数，音色や響き，強弱等，主題を演奏する楽器の変化に注目して聴く。	リ ズム	
＜リズムに着目する＞ ・リズムの特徴を見付ける。 曲に合わせてリズムを手で打つなどして，同じリズムが繰り返されていることに気付く。	旋 律 音 色	
・細かく動く  のリズムだけで	リ ズム	

なく、弦楽器などによる ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ のリズムもあることに気付く。 ＜その他＞ ・盛り上がっている部分はどこか探しながら聴く。 ・曲の中で、「変化していること」と「変化していないこと」があるのを見付けながら聴く。 ○ 曲の仕組みや特徴を踏まえながら、自分なりに批評する。 ＜旋律に着目して＞ ・主題を繰り返すことによって生み出される効果 ・演奏する楽器の変化に伴う主題の音色の変化 ＜リズムに着目して＞ ・リズムを繰り返すことによって生み出される効果 ・リズムの音色、楽器の種類、強弱の変化 ＜曲の構成に着目して＞ ・強弱、音色、楽器の組み合わせ、転調、曲の始まり方と終わり方等 ○ 批評を紹介し合い、それらを踏まえて再度鑑賞する。 ・批評のワークシートを交換して見合ったり、小グループの中で発表したりした後でもう一度鑑賞し、友達の感じ方を確かめる。 ・友達の批評のよさや自分の感じ方との違いを見付けるとともに、それらを確かめながら、最後にもう一度鑑賞する。 ○ 〈発展的な扱い〉 ・バレエの「ボレロ」の映像があれば合わせて鑑賞し、楽曲の曲想の変化と振り付けの変化との相乗効果などを理解する。	反復 強弱 テクスチャ 変化 「根拠をもって批評する」についての指導は、中学校学習指導要領 p. 51(2) B 鑑賞アに解説されていることを参考にしてください。
---	---

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
・「ボレロ」を形づくっている音色、旋律、強弱、リズム、テクスチャ、構成などの要素や、その要素同士の関わり、音楽の展開の有様と、曲想との関わりに関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	・音色、旋律、強弱、リズム、テクスチャ、構成などの要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを理解して、解釈したり価値を考えたりし、根拠を持って批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。

～鑑賞の仕方について～

「ボレロ」はバレエ音楽として作曲されました。しかし現在では、バレエ音楽という枠にとどまらず、演奏会用のオーケストラ作品としても盛んに演奏されています。

本事例では、バレエ音楽との関係は発展的に扱う場合のみに触れるようにし、聴取活動を中心に扱っています。これは、指導事項アを主とした楽曲の構造に気付く力を育てることをねらった題材だからです。指導事項イと関連させる題材とすれば、もっとバレエについて調べたり、他のポピュラーなバレエ音楽についても扱ったり、映像を見せたりという学習を取り入れる必要があります。

このように、題材の目標によって、楽曲との出会わせ方や鑑賞のさせ方など学習活動そのものが変わってきます。ですから、題材の目標に迫るために、『この鑑賞の授業では映像付きのものを鑑賞させるのか、楽曲そのものに注目させたいので映像なしの鑑賞にするのか』『オーケストラ作品にするのか、ピアノ作品にするのか』など、事前によく検討し、鑑賞教材を使い分けることが大切です。

鑑賞に限らず、「何を教えたいのか」「何を感じ取らせたいのか」「どんな力を身に付けさせたいのか」などを常に頭において授業を構成していきましょう。

第3学年 B 鑑賞

題材名「日本の伝統的な舞台芸術：能」 教材名「^{はごろも}羽衣」

【第2学年及び第3学年の目標】

- (1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。
- (2) 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。
- (3) 多様な音楽に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。

【第2学年及び第3学年の鑑賞の指導事項】

- ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。
- イ 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、鑑賞すること。
- ウ 我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴から音楽の多様性を理解して、鑑賞すること。

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項 → イ, ウ

- ・能に興味・関心を持ち、日本の伝統的な芸術の特徴や音楽の役割を理解しながら鑑賞する。
- ・能特有の声の出し方や楽器の音色の特徴などを感じ取って鑑賞する。

【学習活動例】

学 習 活 動 例	〔共通事項〕との関連
○ 能について、他教科の学習と関連付けながら知っていることを出し合う。 ・歴史で学習した室町文化、猿楽・田楽、観阿弥・世阿弥等を押さえながら、能が発祥、発展した流れを理解する。 ・面、謡や舞台のことなど、能に関わることを想起する。 ○ 能「羽衣」のあらすじを理解し、天人が舞を披露し、羽衣をまとして天界に舞い上がっていく場面（『破ノ舞』から）の音楽に着目して視聴する。 ・歌詞を追いながら聴き、地謡が謡っている情景や内容をつかむ。 ・謡の伴奏をしている楽器の演奏の様子を聴き取る。 ・謡のリズムや速度の変化などを聴き取り、その変化や謡い方、楽器の伴奏の仕方から情景を感じ取り、ワークシートにまとめる。 ※謡を体験する活動を行うために、最後の場面を部分的に鑑賞する。 ○ 最後の場面「さるほどに 時移って～霞に紛れて 失せにけり」の部分の謡を体験する。 ・歌詞を追いながらCDに合わせて謡ったり、字幕付きの映像資料等を見ながら合わせて謡ったりする。 ※表現領域(1)歌唱の指導を行う訳ではないが、速度の違いや音の高低を意識しながら、伴奏のリズムによって謡う体験をさせたい。	音色 リズム 速度 旋律 リズム 速度

○ ^{うたい はやし}謡や囃子の場面を中心に「羽衣」を視聴する。 ・囃子の演奏でワキ（白竜）が登場する場面の音楽に着目して視聴する。 ・シテ（天人）が表れ、衣を返して欲しいと願う場面の掛け合いの様子に着目して視聴する。 ※言葉の意味を理解できるようにする。 ※途中から囃子の楽器が演奏されるので、その効果などを感じ取る。 ・舞を披露し、羽衣をまとして天界に戻っていく場面の舞踊や音楽に着目して視聴する。 ※音楽を形づくっている要素に着目して聴き、体験した謡（大ノリ型）と比較しながら様々な謡や囃子の演奏を鑑賞するようにしたい。 ○ オペラや歌舞伎など他の総合芸術との違いを理解する。 ・音楽（楽器の種類、謡など）、舞踊（舞）、演技（面や動きなど）、舞台や衣装など観点ごとにまとめる。						音色 リズム 速度
(例)	楽器	うたい方	舞踊	演技	舞台・衣装	
能						
歌舞伎	舞台後ろの囃子方と三味線方で演奏	舞台後ろの唄方が1人や複数で唄う	主役が舞う。「延年の舞」など激しい	大げさな動きや見得などが特徴	廻り舞台や花道 隈取の特殊な化粧	
オペラ	オーケストラが舞台の下で演奏	ソロや重唱、合唱など色々な歌い方	専門のダンサーが踊る	会話や心の中のこととも歌で表す	大道具などで場面に合う舞台や衣装	
※歌舞伎やオペラについての学習で観点別にまとめておくと、総合芸術の学習というまとまりで題材を構成することも可能になります。 ○ 能舞台、能面、型、舞、装束などの中から調べてみたい事柄を選び、調べたことを発表し合う。 ※「^{おもて}面」のテラス・^{かた}クモラス、「型」のシオリ、モロシオリなど、教科書に掲載されている内容を押さえられるようにする。						

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
・能の特徴とその独特の音楽やその背景となる文化・歴史、他の芸術との関連に関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	・音色、リズム、旋律、速度を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて能の特徴を理解して、解釈したり価値を考えたりし、鑑賞している。

（ノリ地）

あずまあそび

東遊の数々に

東遊の数々に

其の名も月の色人は

さんごやちゅう

三五夜中の空にまた

まんがんしんによ

満願真如の影となり

ごが

御願圓滿 國土成就

しつぽうじゅうまん

七宝充滿の宝を降らし

國土にこれを施し給ふ

さるほどに時移って

天の羽衣

浦風に棚引き棚引く

三保の松原 浮島が雲の

あしたかやま

愛鷹山や富士の高嶺

たかね

幽かになりて

天つ御空の霞に紛れて

失せにけり

